

2025 年 2 月期 第 1 四半期決算説明会（アナリスト・機関投資家向け）

2024 年 6 月 24 日（月）17：00～17：45

決算説明会における質疑応答の要旨です。ご理解いただきやすいように、内容は加筆・修正しています。

Q. 1Q の計画進捗状況、2Q 以降の見通しについて

A. 売上高、粗利高・率は計画を若干上回り、営業利益も良い結果となっています。 昨年の上期の業績が非常に好調だったため、今年の 1 Q は増収減益の予想でしたが、結果的に 1 Q は増収増益でした。粗利が計画を上回った要因は、想定よりも冬物処分が順調に進み、値下が抑えられたことによるものです。 冬物値下の圧縮により滞留在庫の処分も順調に進み、在庫内容が改善されました。 また、しまむら事業では高価格帯への移行が進み、値入率が昨年よりもプラスになっていることも一因です。 販管費では、ベースアップにより人件費が増加しましたが、全体としては概ね計画通りです。 2Q 以降も、高価格帯への移行により適正な値入を確保することや、計画的な値下により在庫回転率及び交差比率を上げていく方針です。

Q. 1Q の 1 点単価と客数について

A. しまむら事業では、冬物及び滞留在庫の計画的な値下による影響により、1 点単価の上昇が緩やかなものになっています。 値下の影響を除くと、期初に想定していた 5 % 程度の伸びと考えられます。 また、重点催事や「〇〇フェア」といった気温に左右されにくい打ち出しを増やしたことで、客数が 3.6% 増加しました。

Q. 円安の影響について

A. 円安対応の一例として、商品の中国生産比率を減らし、ASEAN の生産比率を増やしています。 特恵関税制度により原価を抑えることができるため、しまむら事業では多くの部門で実施しています。 為替状況については今度の見通しが不透明ですが、下期の 1 点単価上昇率も 5 % 程度と想定しています。

Q. 出退店・改装計画について

A. 出店計画数を、期初の 43 店舗から 44 店舗に修正しました。 これは、今期オープンの見通しが立った店舗の実数です。 同じく退店数の計画も、期初の 16 店舗から 19 店舗とし、3 店舗増加しました。 尚、純増店舗数は 25 店舗で、期初の計画より 2 店舗減少しました。 改装は、期初の 40 店舗から 54 店舗に修正しました。 建物のオーナーと協議を進めた結果、改装店舗数が大幅に増加しました。 中期経営計画 2027 の「出店 150 店舗」及び「改装 150 店舗」を最低必達ラインとし、これにどれだけ上乗せできるかを算段しています。